

畜産総合研究センター令和8年度完了課題意見交換結果

		外部専門家氏名	岩渕 義徳 大井 幸実 菅谷 知男 糟谷 英文 長谷川 太一
		試験研究機関長名	大澤 浩司
研究課題名	交雑種去勢肥育牛における自給飼料を活用した肥育期間短縮技術の検討	研究期間	令和5～7年度
外部専門家からの 意見・指摘事項	<意見> ○自給飼料50%給与区は増体成績が優れているため、ビタミンA欠乏症による採食量の低下がなければ、増体を維持しながら枝肉成績も確保でき、経済性の面で一番有利な結果になった可能性があると感じた。 ○この試験での給与の仕方として、CS0%給与区に合わせているため、50%給与区に合わせた給与方法も検討すると良いと思う。 ○早期肥育は、前半勝負になってきていると感じている。そのため、一日でも早く大きくしたいと考えて飼養管理を行っている。本試験の給与体系は、今現場で取り組んでいる飼養方法とも関連があり、参考になる結果であった。 ○現場でもチモシー、アルファルファ、WCS、CSを混合して給与しており、給与を始めてから子牛の発育が良くなったと感じている。現在も発育状況を見ながら飼養しており、本研究結果を参考にしたい。 <指摘> 特になし		

畜産総合研究センター令和8年度完了課題意見交換結果

		外部専門家氏名	岩渕 義徳 大井 幸実 菅谷 知男 糟谷 英文 長谷川 太一
		試験研究機関長名	大澤 浩司
研究課題名	日本版アニマルウェルフェアに配慮した豚のストレス緩和法の検討	研究期間	令和5～7年度
外部専門家からの意見・指摘事項	<意見> ○アニマルウェルフェアの取組について、実際に実施した結果を数値で示してもらったことはありがたい。特に本試験中においてのアニマルウェルフェアへの配慮による作業性や生産成績への影響がなかったこと、コルチゾール濃度にも大きな変化がみられなかったことは生産者にとって有用な結果である。 ○日本版アニマルウェルフェアで求められる巣材について、どういうものが巣材として認められるのかなかなか案が出なかったため、麻布や人工芝などの素材を試験したことは参考になる。 ○人工芝の洗浄・再利用のしやすさや、麻布が設備に及ぼす影響については、生産現場での利用を考える上で気になる点である。 <指摘> ○ストレス評価については、コルチゾール濃度のみでなく他の指標も含めて検証する必要があるのではないかな。		

《対応方針等》

今後、ストレスの評価については、血中及び唾液中のコルチゾール濃度とセロトニン濃度の測定を行う。

畜産総合研究センター令和8年度新規課題意見交換結果

		外部専門家氏名	岩渕 義徳 大井 幸実 菅谷 知男 糟谷 英文 長谷川 太一
		試験研究機関長名	大澤 浩司
研 究 課 題 名	ゲノミック評価と牛群検定成績の関連性の検証	研 究 期 間	令和9～11年度
外部専門家からの 意 見 ・ 指 摘 事 項	<意見> ○ゲノミックを用いた改良は今非常に注目されているので、良い観点での試験だと思う。ゲノミック評価は牛が持つ素質を数値で示すものであり、今後の改良を進める上で重要な情報になると考える。 ○海外ではゲノミック評価の高い牛が、利益が大きい傾向になっているが、日本はまだまだ評価されていない。ゲノミック評価を活用することで、経済的な牛群に育っていくことになると思うので、これからも研究を進めていただきたい。 ○千葉県独自の改良目標やオリジナリティーを確立し、その成果を、受精卵などを通じて生産現場へ還元してほしい。加えて、個々の農家の改良や生産性向上につながる研究として進めてほしい。 ○飼料効率は飼料摂取量だけでなく、乳量や体格など様々な要素が関係するため、それらを踏まえて評価する必要がある。体が大きくても乳量が多い牛であれば飼料効率が低い場合もあり、複数の要因を考慮しながら研究を進めてほしい。具体的には、今回の調査項目に加え、乳成分、繁殖成績、疾病の発生状況などについてもデータを蓄積し、飼料効率との関係を継続的に検証していくことが重要である。 <指摘> 特になし		